

# 2022年3月期 第3四半期 決算説明資料

株式会社キトー（東証1部：6409）

2022年2月8日

# 2022年3月期 第3四半期（3カ月）サマリー

(単位：百万円)	2022/3期 Q3	対2021/3期Q3比	(参考) 対2020/3期Q3比
<b>売上高</b>	<b>15,950</b>	<b>+17.8%</b>	<b>+4.9%</b>
<b>営業利益</b>	<b>1,460</b>	<b>△15.5%</b>	<b>△17.5%</b>
<b>当期純利益※</b>	<b>1,193</b>	<b>+4.0%</b>	<b>+13.8%</b>

※親会社株主に帰属する四半期純利益

- 北米・欧州の急速な需要回復を受け、工場は増産体制を継続中
- 日本、アジアの需要は緩やかに回復。インフラ投資需要のさらなる拡大に期待
- 資材調達先、輸送路等、サプライチェーン確保により、顧客サービス維持に注力
- 資材費、輸送費等高騰による利益影響が顕在化

1

## 2022年3月期 第3四半期 決算報告

2

## 2022年3月期 見通し

3

## 参考資料

- 過去5期分の業績・財務情報（2017年3月期-2021年3月期）
- 事業内容について

# 2022年3月期 第3四半期（9ヶ月） 決算ハイライト

(単位 百万円)	2020/3期 Q3	2021/3期 Q3	2022/3期 Q3	前年同期比
売上高	42,753	35,580	<b>44,243</b>	+24.4%
売上総利益 売上総利益率	16,080 37.6%	13,148 37.0%	<b>15,891</b> 35.9%	+20.9%
営業利益 営業利益率	3,947 9.2%	2,976 8.4%	<b>3,919</b> 8.9%	+31.7%
経常利益 経常利益率	3,482 8.1%	2,880 8.1%	<b>3,964</b> 9.0%	+37.7%
親会社株主に帰属する 四半期純利益 当期純利益率	2,131 5.0%	1,314 3.7%	<b>2,871</b> 6.5%	+118.4%
EBITDA =営業利益+償却費	6,178	5,172	<b>6,152</b>	

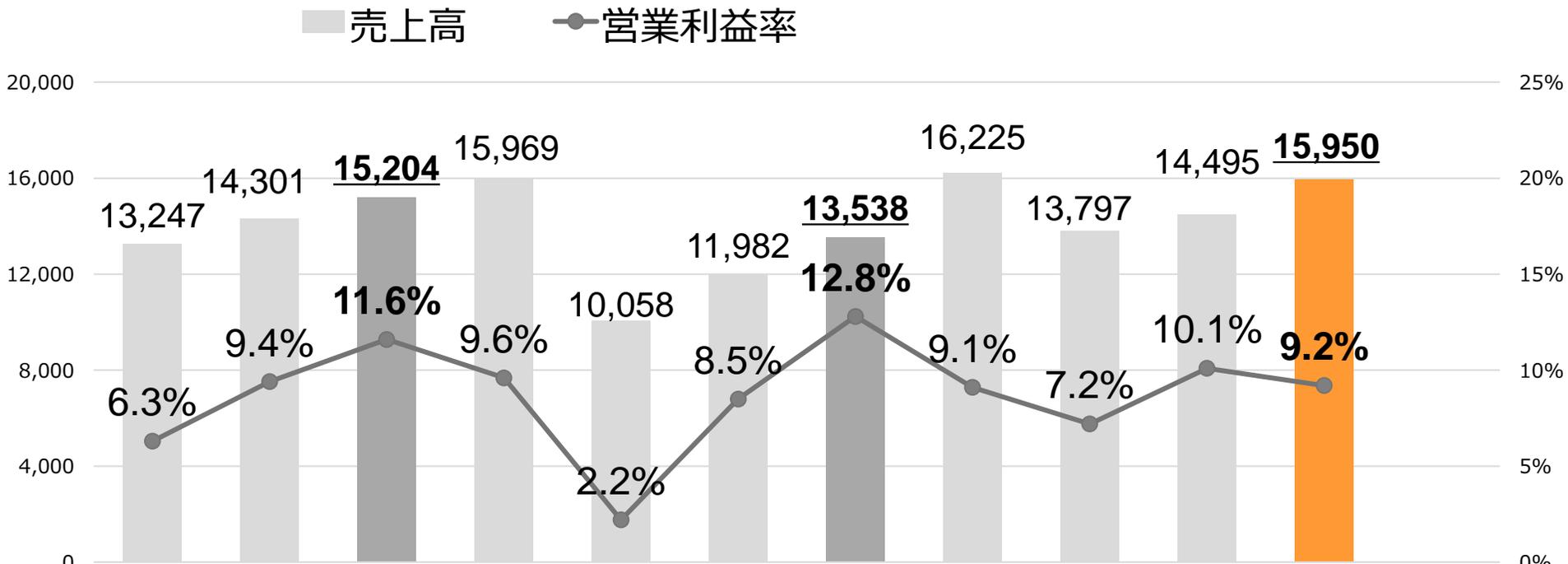
注 為替レート (2021/3期Q3→2022/3期Q3) :

USD 106.1→111.1円 CAD 79.2→89.0円 EUR 122.4→130.6円 RMB 15.4→16.8円

# 売上高および営業利益率（四半期比較）

需要回復を受け、売上高は Q3 累計として過去最高を記録  
 資材費・輸送費等の高騰により利益影響が顕在化

(単位：百万円)



営業利益

**2020/3期**  
 売上高 58,722  
 営業利益 5,474

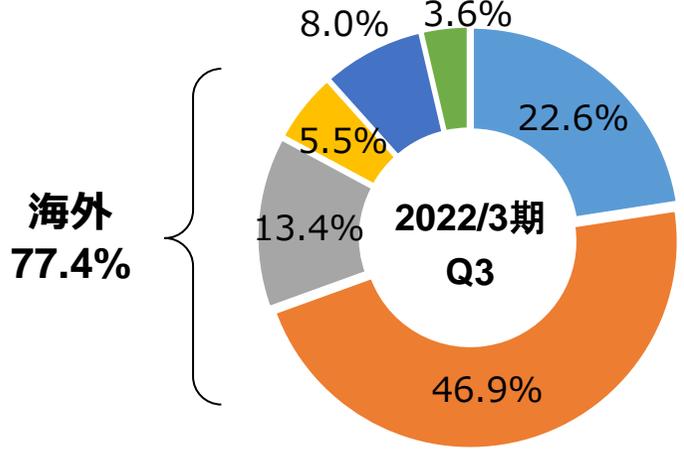
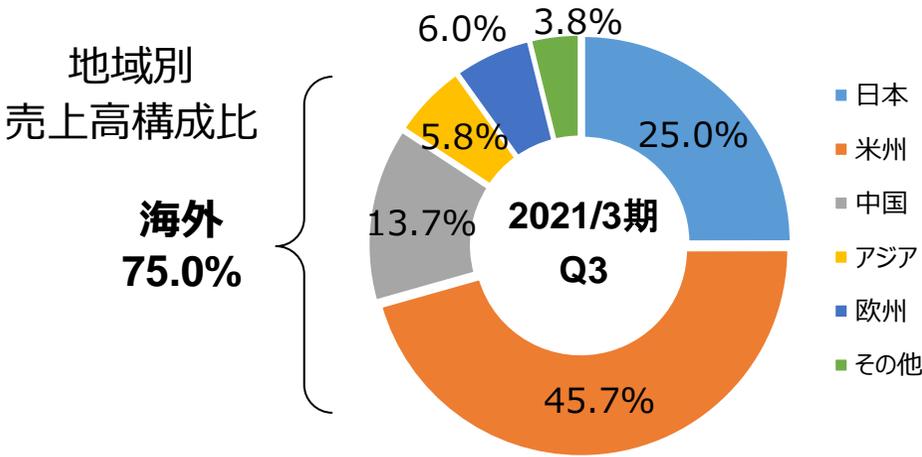
**2021/3期**  
 売上高 51,805  
 営業利益 4,457

**2022/3期 (予)**  
 売上高 59,000  
 営業利益 5,500

# 地域別の状況

(単位：百万円)	2020/3期 Q3		2021/3期 Q3		2022/3期 Q3		前年同期比	
		構成比		構成比		構成比	増減額	増減率
<b>売上状況</b>	42,753	100.0%	35,580	100.0%	44,243	100.0%	8,633	24.4%
<b>日本</b>	11,080	25.9%	8,887	25.0%	9,988	22.6%	1,100	12.4%
<b>米州</b>	20,093	47.0%	16,231	45.7%	20,727	46.9%	4,495	27.7%
<b>中国</b>	5,324	12.4%	4,865	13.7%	5,949	13.4%	1,083	22.3%
<b>アジア</b>	2,590	6.1%	2,080	5.8%	2,443	5.5%	363	17.5%
<b>欧州</b>	2,051	4.8%	2,146	6.0%	3,523	8.0%	1,377	64.2%
<b>その他地域</b>	1,613	3.8%	1,368	3.8%	1,611	3.6%	243	17.8%

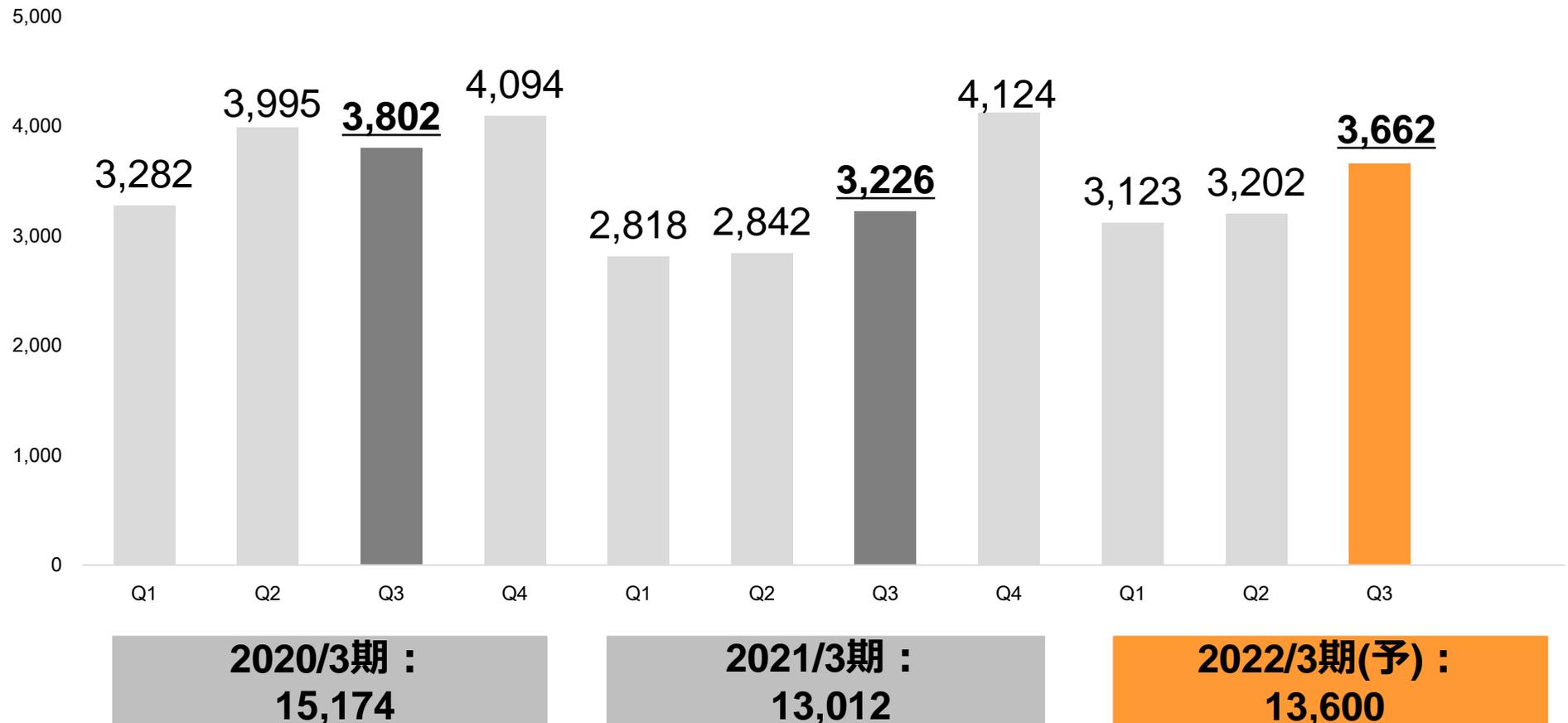
注 為替レート (2021/3期Q3→2022/3期Q3) :  
 USD 106.1→111.1円 CAD 79.2→89.0円 EUR 122.4→130.6円 RMB 15.4→16.8円



# 地域別売上高（日本）

- 長期に渡った緊急事態宣言下においても、需要は緩やかに回復
- インフラ投資、民間設備投資の両面において、さらなる需要拡大に期待

（単位：百万円）



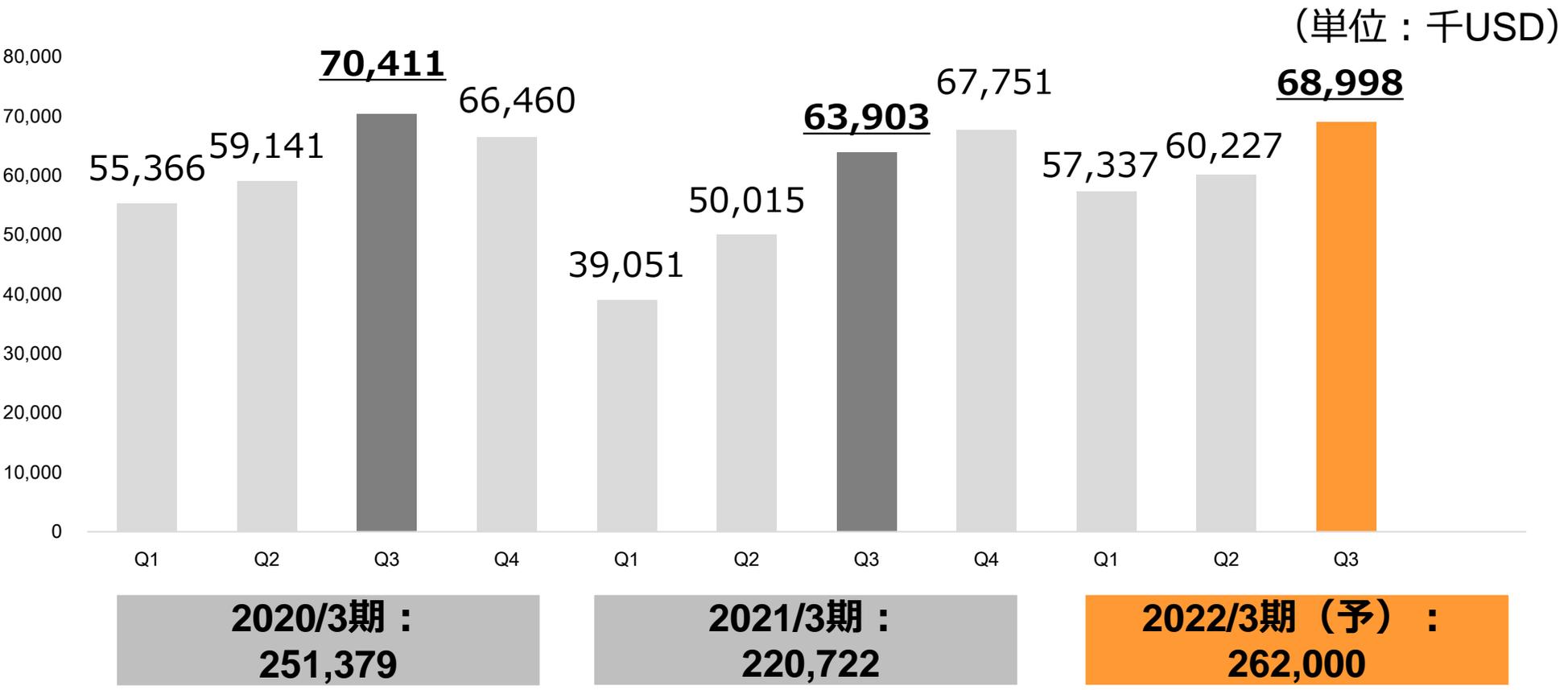
# 地域別売上高（米州）

※グラフは米国市場売上高にカナダ及び中南米市場（USDドル換算）を加算した金額の推移

## ◇米州事業の特徴

日本と同様にホイストを中心としたマテハン事業に加えて、ピアレス社のクサリ関連事業で構成

- 経済活動の回復を受けて需要が急拡大、幅広い産業で荷動きが活発化
- 物流の混乱も、製品供給をはじめ、サービスレベル維持に注力。



# 地域別売上高（中国）

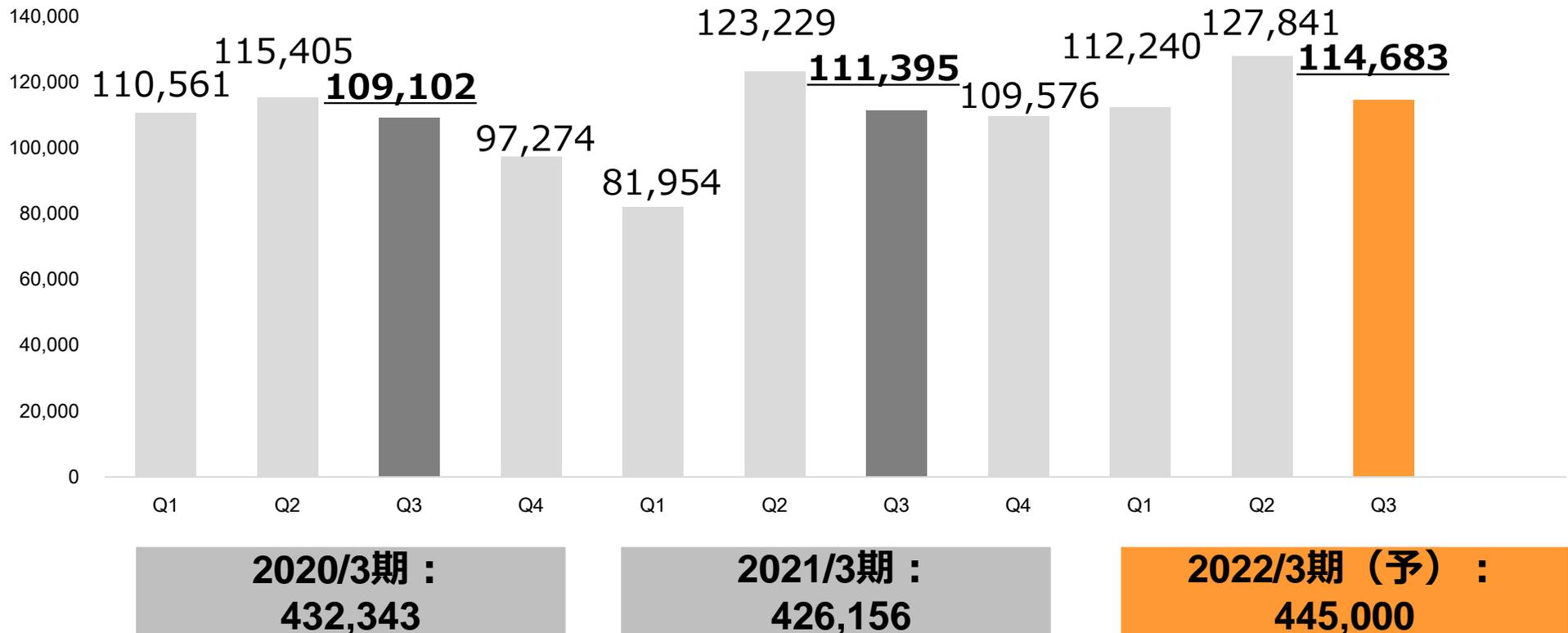
※中国は1-12月決算

◇中国事業の特徴：

中国市場向けロープホイストの製造販売と、日本からの高機能製品の輸入販売が事業の2本柱

- 昨年来、内需を中心とした需要動向は堅調  
（中国セグメントは7～9月がQ3）

（単位：千RMB）



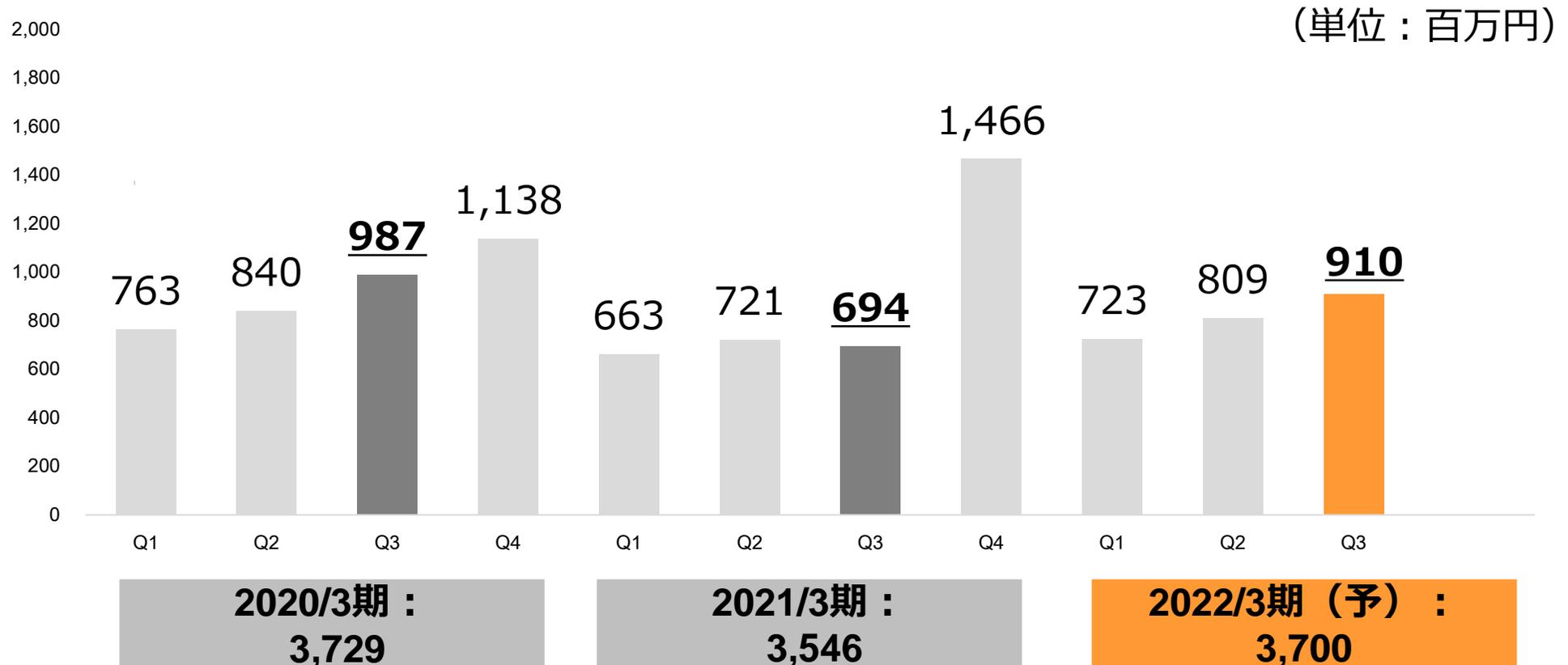
# 地域別売上高（アジア）

※タイ、韓国、台湾は1-12月決算、インドネシア、インドは4-3月決算

◇アジア事業の特徴：

主軸のタイ、韓国でクレーン事業を手掛ける。事業構造を見直し収益性拡大を図る。

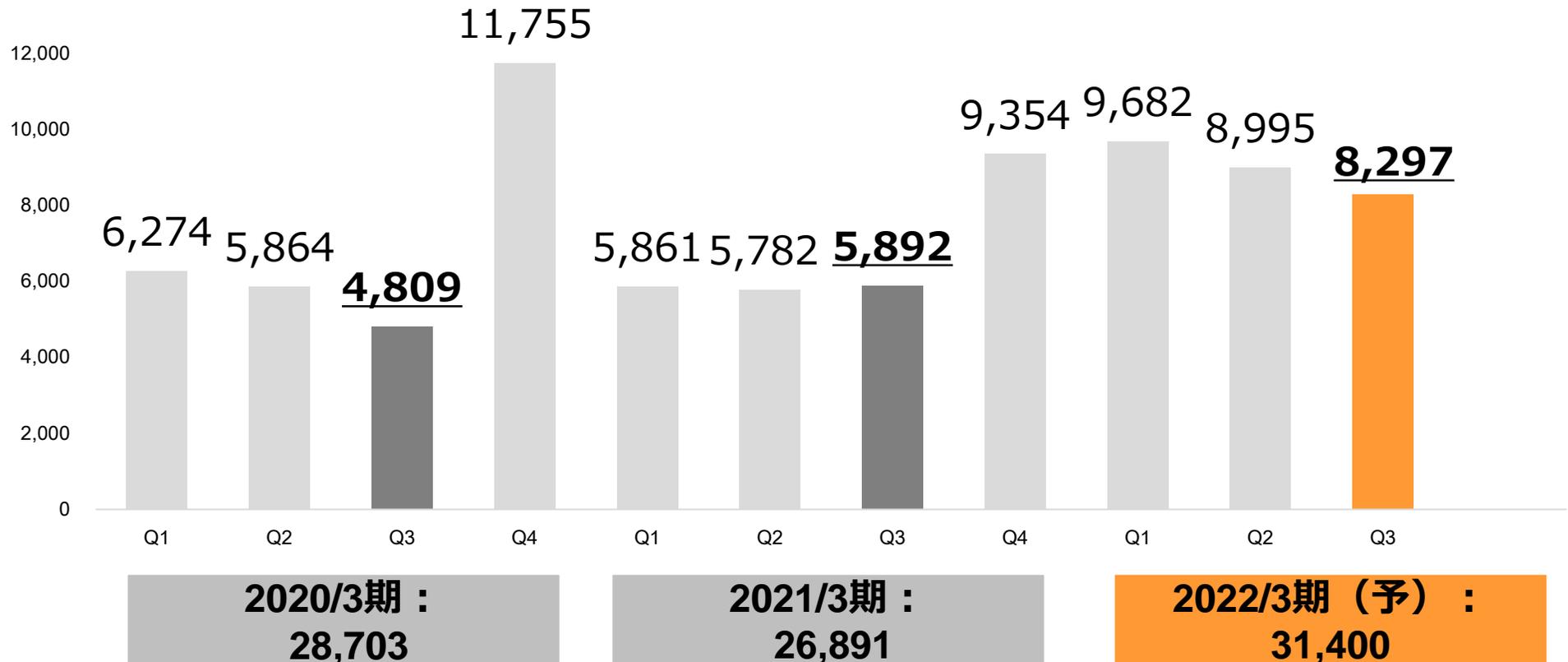
- 地域、産業により濃淡あるも、需要環境は緩やかに回復傾向



# 地域別売上高（欧州）

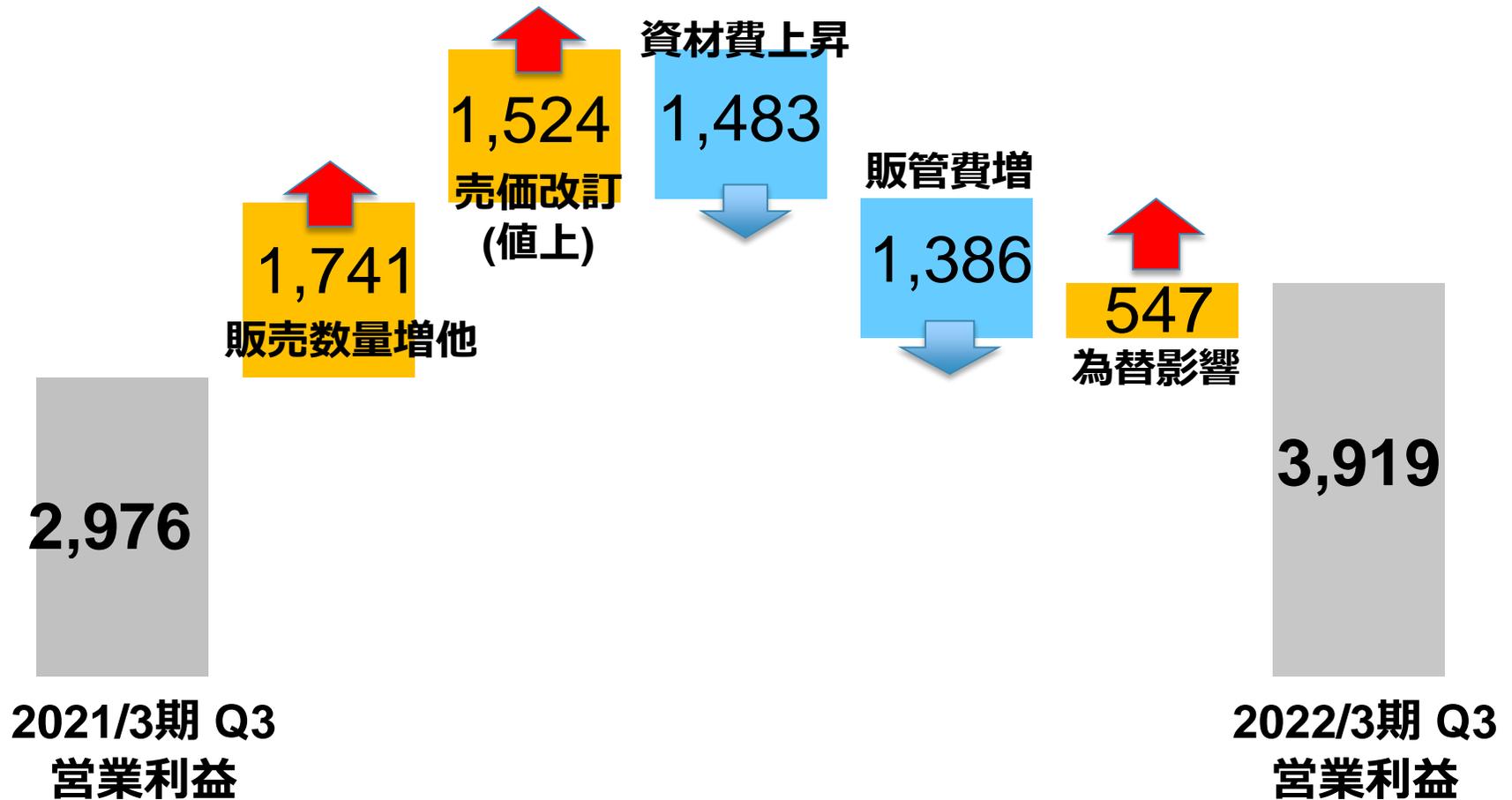
- 昨年度末にオランダ子会社を連結
- 競合との差別化による着実な市場浸透により、拡大する需要を捉える

（単位：千EUR）



# 営業利益の比較

(単位：百万円)



# 2022/3期 Q3 連結貸借対照表（前年同期比）

単位：百万円	2021/3期 Q3	2022/3期 Q3	増減額	単位：百万円	2021/3期 Q3	2022/3期 Q3	増減額
<b>流動資産</b>	42,335	43,598	1,262	<b>流動負債</b>	22,816	18,806	△ 4,009
現金及び預金	12,853	10,493	△ 2,360	支払手形及び 買掛金	4,683	7,518	2,835
受取手形、売掛金 及び契約資産	9,251	11,148	1,896	短期借入金*	12,625	5,013	△ 7,611
棚卸資産	18,801	20,547	1,745	その他	5,507	6,274	767
その他	1,427	1,408	△ 19	<b>固定負債</b>	12,151	14,816	2,665
<b>固定資産</b>	21,015	23,753	2,738	長期借入金	8,550	11,140	2,590
有形固定資産	12,132	14,714	2,581	その他	3,601	3,675	74
無形固定資産	4,706	4,740	34	<b>純資産合計</b>	28,383	33,728	5,344
投資その他の資産	4,176	4,298	122	<b>負債純資産合計</b>	63,350	67,351	4,000
<b>資産合計</b>	63,350	67,351	4,000				

\* 1年内返済予定の長期借入金を含む

1

## 2022年3月期 第3四半期 決算報告

2

## 2022年3月期 見通し

3

## 参考資料

- 過去5期分の業績・財務情報（2017年3月期-2021年3月期）
- 事業内容について

**日本**      **売上予想 13,600百万円（前期比+4.5%）**

**市場環境**

- 内需に先行し、輸出産業の動きが顕在化
- 緊急事態宣言解除以降、感染者の減少とともに需要動向にも明るい兆し

**取り組み**

- 専任営業による大型物件への営業力強化
- 生産性向上のための設備投資を継続
- ECサイトの拡充と顧客サービスの向上

**米州**      **売上予想 27,900百万円（前期比+19.2%）**

**市場環境**

- 経済活動の再開により、需要は急拡大
- 物流の混乱、労働力不足問題を注視

**取り組み**

- 拡大したシェアと市場回復との相乗効果を発揮
- 販売価格の見直し、製品の安定供給と顧客サービス維持に注力

## 中国 売上予想 7,300百万円（前期比+10.7%）

- 市場環境** - 環境、品質に対する意識の高まりによりシェア拡大傾向
- 取り組み** - 好調業種の設備投資需要を捉え、販売拡大を図る

## アジア 売上予想 3,700百万円（前期比+4.3%）

- 市場環境** - 韓国の液晶関連需要は低調傾向  
- 感染再拡大の影響から経済活動の回復は足踏み状態
- 取り組み** - クレーンのメンテナンスなどサービス事業、ホイスト販売の強化  
- タイ、韓国における顧客基盤拡大を推進

## 欧州 売上予想 4,000百万円（前期比+20.3%）

- 市場環境** - 経済活動再開に伴う需要回復に期待  
- エネルギー価格高騰の影響に注視
- 取り組み** - 買収子会社による相乗効果で、さらなる事業拡大

# 2022年3月期 業績予想 (地域別)

(単位：百万円)	2021/3期		2022/3期 (予想)		前期比	
		構成比		構成比	増減額	増減率
売上状況	51,805	100.0%	59,000	100.0%	7,195	+13.9%
日本	13,012	25.1%	13,600	23.1%	588	+4.5%
米州	23,409	45.3%	27,900	47.3%	4,491	+19.2%
中国	6,596	12.7%	7,300	12.4%	704	+10.7%
アジア	3,546	6.8%	3,700	6.3%	154	+4.3%
欧州	3,326	6.4%	4,000	6.8%	674	+20.3%
その他地域	1,913	3.7%	2,500	4.2%	587	+30.7%

注 為替レート (2021/3期→2022/3期) :

USD 106.1→106.6円 CAD 80.3→86.3円 EUR 123.7→127.2円 RMB 15.5→16.4円

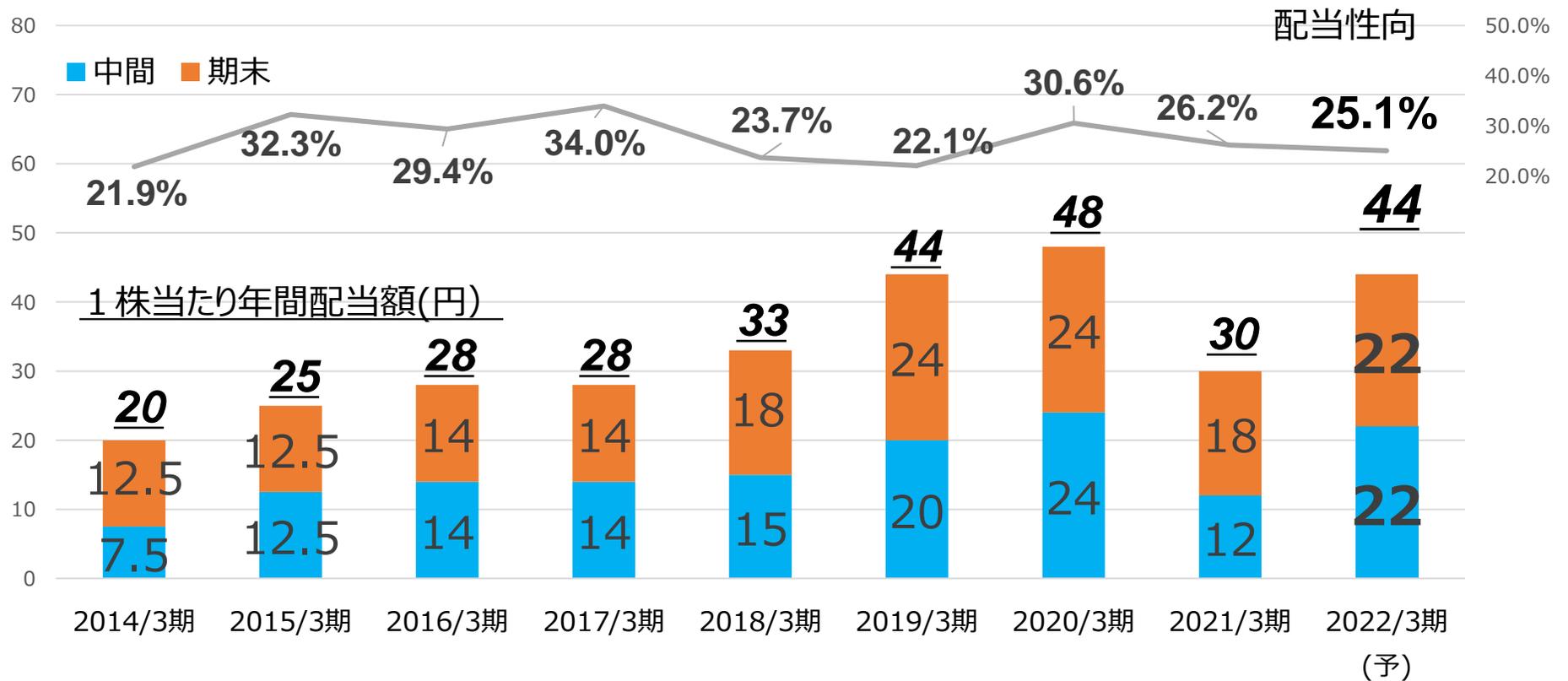
# 2022年3月期 業績予想

(単位 百万円)	2021/3期	2022/3期 (予想)	前期比
売上高	51,805	59,000	+13.9%
営業利益 (営業利益率)	4,457 (8.6%)	5,500 (9.3%)	+23.4%
経常利益 (経常利益率)	4,550 (8.8%)	5,300 (9.0%)	+16.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益 (当期純利益率)	2,344 (4.5%)	3,600 (6.1%)	+53.6%
EBITDA =営業利益+償却費	7,503	8,400	+12.0%
設備投資	2,504	3,500	

注 為替レート (2021/3期→2022/3期) :

USD 106.1→106.6円 CAD 80.3→86.3円 EUR 123.7→127.2円 RMB 15.5→16.4円

# 株主還元方針／配当予想



(注) 下記の株式分割を行っており、上記配当額は当該株式分割を勘案した数値を記載しております。

2013年4月1日付：普通株式1株→100株、2014年10月1日付：普通株式1株→2株

(注) 2014/3期につきましては、2014年10月1日の株式分割前となる中間期の実際の1株当たり配当額は25円となり、株式分割後の期末の1株当たり配当額は2分割後の12.5円となります。

1

2022年3月期 第3四半期 決算報告

2

2022年3月期 見通し

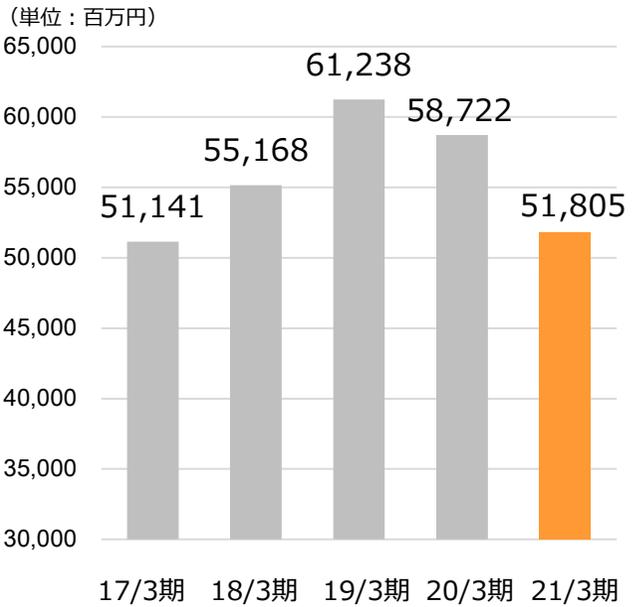
3

**参考資料**

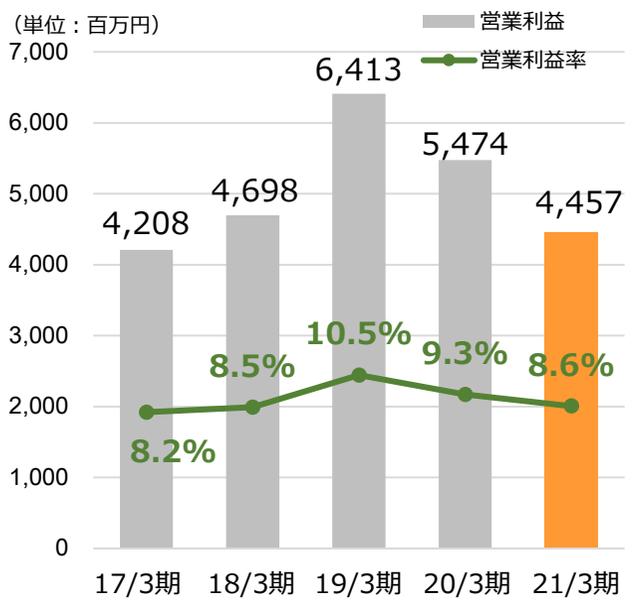
- 過去5期分の業績・財務情報（2017年3月期-2021年3月期）
- 事業内容について

# 業績・財務情報

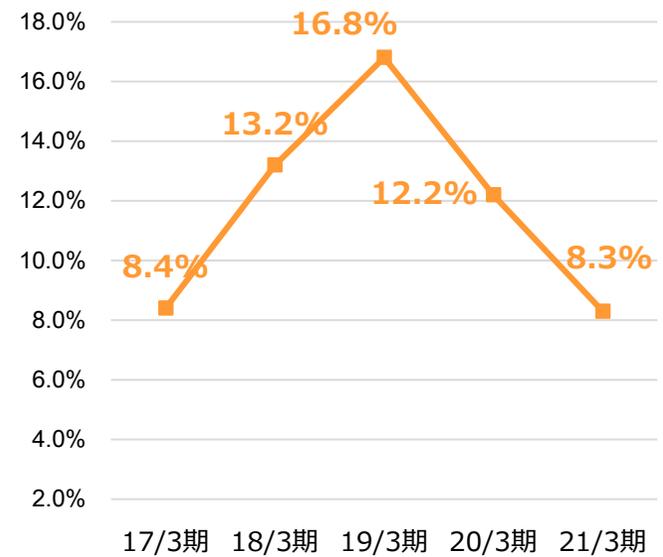
## 売上高



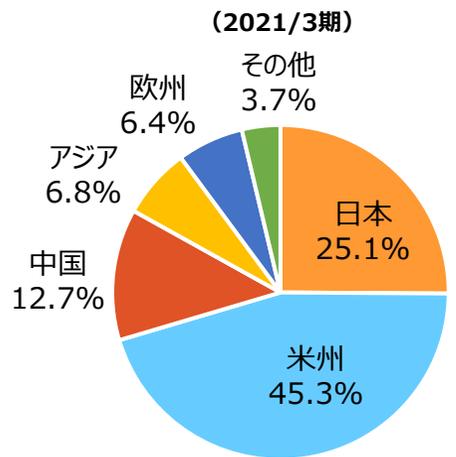
## 営業利益・営業利益率



## ROE



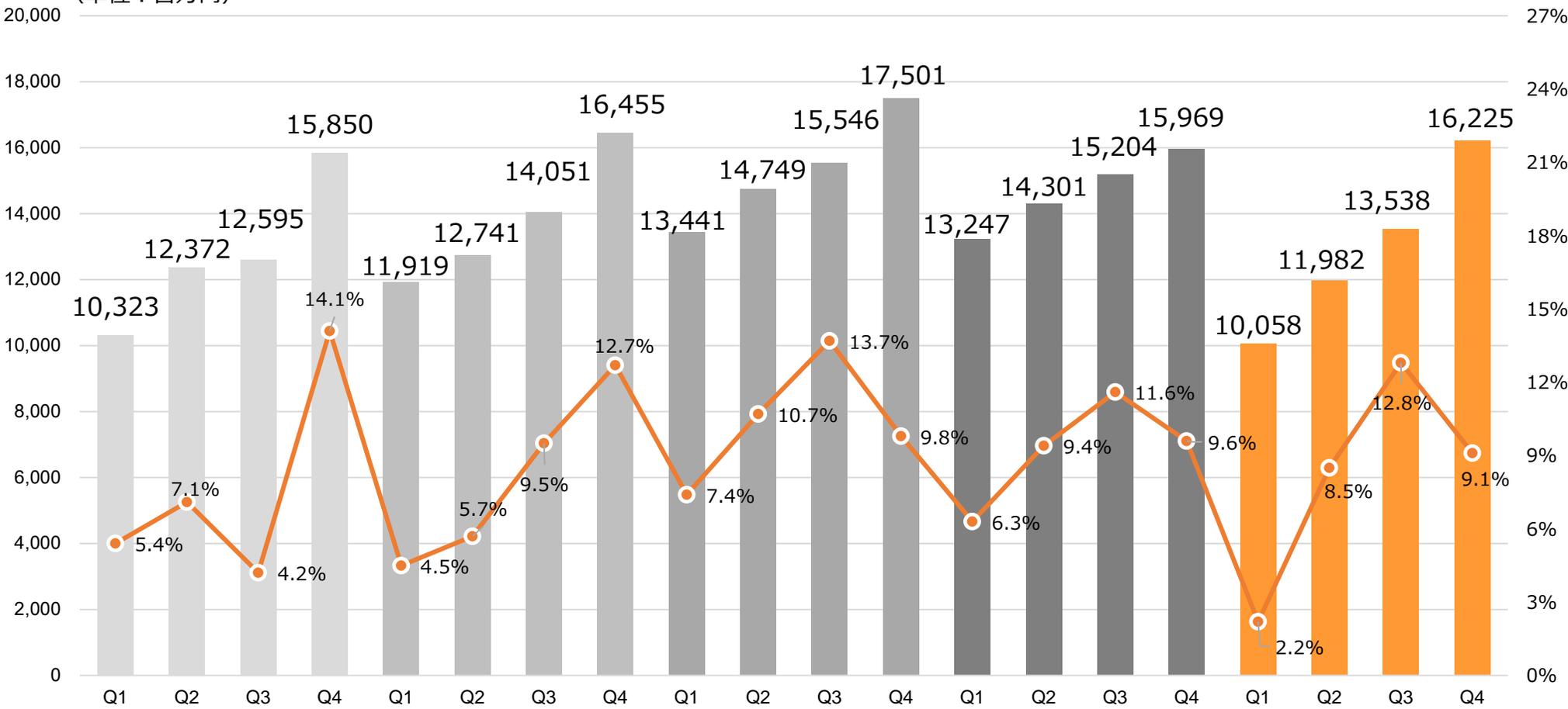
## 地域別売上高比率



	2017/3期	2018/3期	2019/3期	2020/3期	2021/3期
海外比率	74.3%	76.0%	73.6%	74.2%	74.9%
為替平均レート					
USD	108.4円	110.9円	110.9円	108.7円	106.1円
CAD	82.5円	86.5円	84.6円	81.8円	80.3円
EUR	118.8円	129.7円	128.4円	120.8円	123.7円
RMB	16.4円	16.6円	16.7円	15.8円	15.5円
設備投資額(百万円)	2,393	1,411	1,416	1,689	2,504
減価償却費(百万円)	1,792	2,116	2,470	2,711	2,697

# 売上高 及び 営業利益率 (四半期比較)

(単位：百万円)



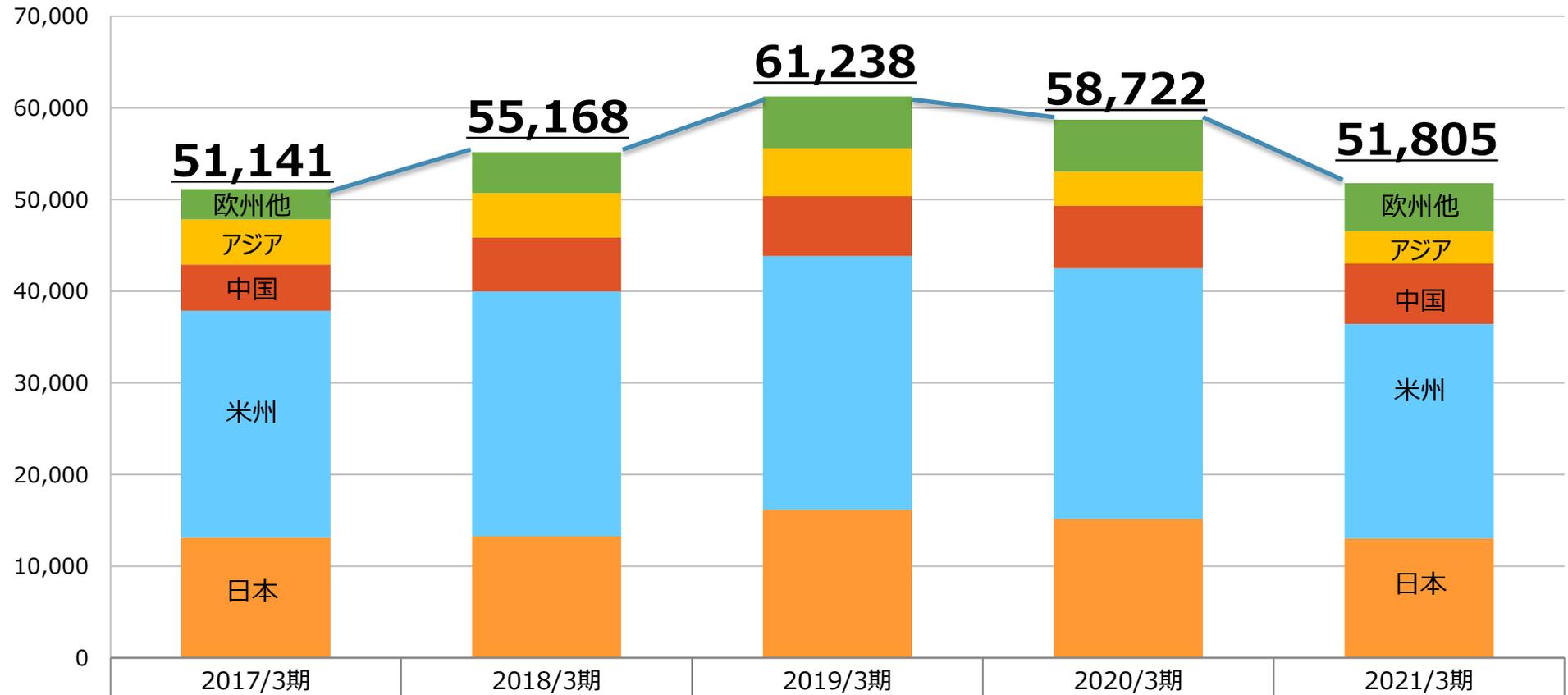
営業利益

561 876 532 2,239 538 730 1,338 2,092 992 1,572 2,131 1,717 837 1,339 1,769 1,526 224 1,022 1,728 1,481

2017/3期	2018/3期	2019/3期	2020/3期	2021/3期
売上高 51,141	売上高 55,168	売上高 61,238	売上高 58,722	売上高 51,805
営業利益 4,208	営業利益 4,698	営業利益 6,413	営業利益 5,474	営業利益 4,457

# 地域別売上高推移

(単位：百万円)



■ 欧州他	3,308	4,465	5,634	5,663	5,239
■ アジア	4,925	4,837	5,239	3,729	3,546
■ 中国	5,034	5,903	6,539	6,822	6,596
■ 米州	24,742	26,700	27,663	27,332	23,409
■ 日本	13,129	13,261	16,162	15,174	13,012

# 事業内容

## モノを持ち上げ、運び、固定する作業に不可欠な、 マテリアルハンドリング機器の リーディングカンパニー



**経済の発展段階に応じた需要**

**特定の業界の動向に依存せず**

**成熟製品でありながら成長産業**

## ■ クレーン

ホイストとの組合せで3次元の動きを実現



## ■ ホイスト（巻上機）

主力はクサリ（チェーン）式（電動・手動）  
ワイヤロープ式もラインナップ（電動）  
（中国においてはロープ式が主力）



## ■ ビローフックデバイス （吊り具）

ホイストで荷物を吊り上げる際の  
中間アタッチメント



## ■ 各種クサリ製品

運搬・移動・固定・牽引  
船舶、農林業、タイヤチェーンなど



# 顧客ニーズの拡大



## “KITO” = “信頼のブランド”

### 製品力

耐久性	高性能
安全性	操作性

### 技術力

顧客の複雑なニーズへの高い技術対応力（エンジニアリング）

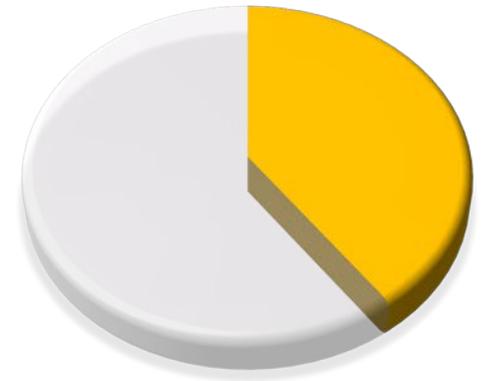
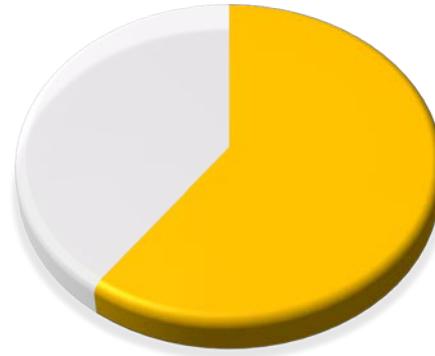
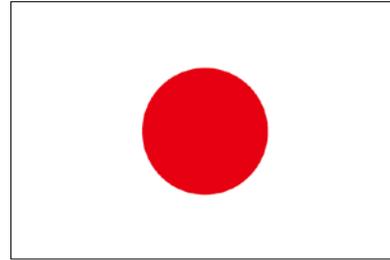
### サービスネットワーク

広範なネットワークによる顧客満足度の高いサービスを実現



高付加価値製品・サービスの提供により差別化を実現  
高品質市場での高い評価

# 信頼に基づく高いシェア



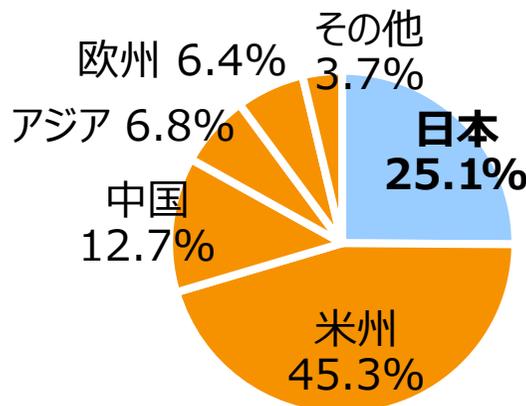
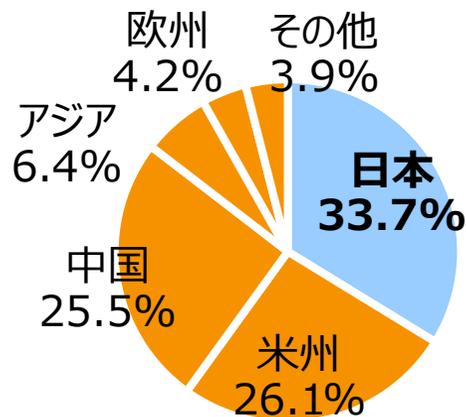
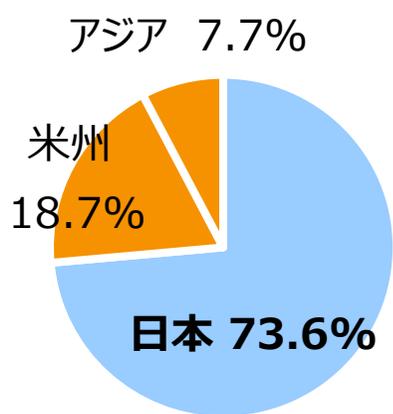
# 海外市場での成長

- 海外市場での成長により、地域分散の効いた事業ポートフォリオ構築
- 特定地域の需要動向に振られることなく、着実な成長を実現

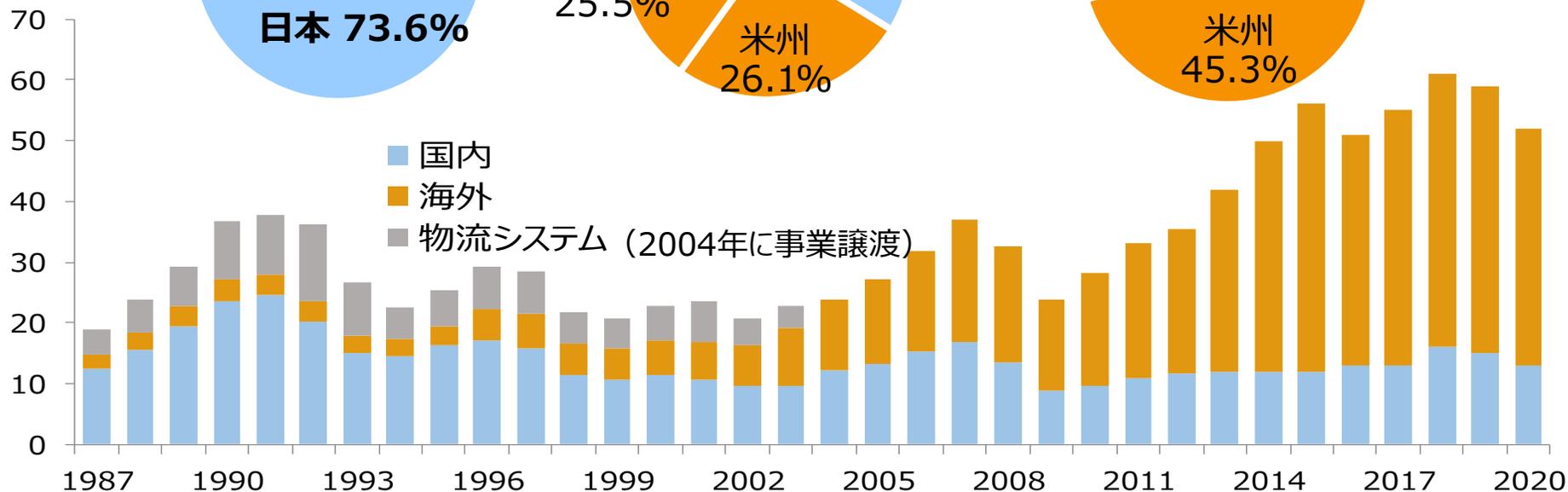
FY2000 売上高227億円  
海外売上比率 26.4%

FY2010 売上高280億円  
海外売上比率 66.3%

FY2020 売上高518億円  
海外売上比率 74.9%



単位: 10億円



# 市場動向に左右されにくい顧客基盤

- 民間設備投資、公共投資を問わず、広範な顧客基盤
- 特定の業界や、市場サイクルの影響を、受けにくい事業構造

工作機械受注統計（内需） キトー国内売上推移（12ヶ月移動平均）

（2015年4-6月期を「1」とした指数変動）

